

皆さん、おはようございます。

先週は喜びあふれます、主の復活のお祝い、イースター礼拝をいたしました。

ルカによる福音書24章の冒頭には、力強くこう書かれています。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。」

「すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

人の子イエス様の死は私たちの救いのため。そしてその復活も、御言葉がかねて古き昔から定められていたこと。神様のご計画と救いは堅く成り、御言葉は成就することを心に刻みたいと思います。

その復活の喜びの日の夕方、しかし弟子たちは恐れおののいていました。

19 その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていて、イエスがはいつてきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。

早朝すでに墓の石は転がされ、イエス様のお身体はなく、御使いは「生きた方を死者の中に探すな」と語っているのに、その同じ日に、弟子たちはなおも恐れの中にいました。

「恐れ」（神様への畏敬の気持ち、「畏れ」ならばよいのですが）は私たちが生きていくうえで取り除けても取り除けても湧き上がってくる厄介な存在です。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とは言いますが、喜びの束の間、恐れはいつの間にか私たちの心を捉えてしまいます。

弟子たちはイエス様が復活された、その勝利の偉大なる日に及んでも、なおイエス様を十字架に、血祭りにあげたユダヤ人たちが今度は自分たちを捕縛するに違いないと思い、戸に鍵をかけ、戸を固く閉ざして恐れに震えていました。この「戸を閉ざす」という言葉は、26節にも再び出てきます。

その堅く閉ざされていた戸をかいくぐって、イエス様は入ってこられ、恐れ震える弟子たちの真ん中に立たれ、「安かれ」と語られました。イエス様は、今もなお、恐れ、心の扉を固く閉ざす私たちの心のうちに、真ん中に立って、私たちに平安を授けて下さいます。

20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。

主は確かに復活されたのです！主は墓の中にはおられません。私たちは、そのことを忘れる

と、恐怖におののくのではないのでしょうか。

ヨハネ 16:33 にありますように、私たちが恐怖におののくのは、イエス様はすでに世に勝っているという事を忘れてしまっているからではないのでしょうか。

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

アメリカ同時多発テロで父親を亡くした 11 歳の少女が一周忌に朗読した詩が『千の風になって』でした。この詩のルーツについては諸説ありますが、アメリカ合衆国メリーランド州ボルティモアの主婦メアリー・フライ (Mary Elizabeth Frye/1905-2004) の作とする説が最も有力です。

母を亡くして落ち込んでいた友人マーガレットのために茶色の紙袋にしたため、彼女の家族の友達が詩をはがきに印刷して人々に送り、広く知られるようになったそうです。

日本では秋川雅史さんが紅白歌合戦で歌ったことなどにより有名になりました。

私のお墓の前で泣かないでくださいそこに私はいません眠ってなんかいません千の風に千の風になって あのかなき空を吹きわたっています
秋には光になって 畑にふりそそぐ 冬はダイヤのようにきらめく雪になる
朝は鳥になって あなたを目覚めさせる 夜は星になってあなたを見守る
私のお墓の前で泣かないでくださいそこに私はいません死んでなんかいません
千の風に千の風になってあのかなき空を吹きわたっています

この「安かれ」という言葉は、平和があり、調和があるようにとの意味があります。平和があり、調和があり、満ち満ちたその世界に平安があります。争いがなく、誰かが誰かを押しつけるようないさかいもなく、そこには調和があります。

マタイ 20 章にこんな話がありました。

20:20 そのとき、ゼバダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かを願った。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」

弟子たちに跡目争いがあり、怒りと憎しみと共に不穏な空気が流れました。そしてイエス様は弟子たちを集めてこう言われました。「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」

これが平和であり、調和です。「あなたがたの間ではそうであってはならない。」とイエス様が語られたのは、当然のことです。イエス様はこの平和のために自らの命を捨てて、神と人との間の平和のために救いの御業を成し遂げて下さったのです。

弟子たちの中には恐怖があり、心が冷え切って、縮こまっていたましたが、イエス様が彼らの真ん中に立ってご自分のお身体をお見せになられると、弟子たちは主を見て喜びました。私たちの教会の真ん中には主イエス様がおられます。そして私たちは常に恐れの中にいますが、この教会の中心におられます主を見る時に喜びがあふれ、恐れを捨てる事が出来るのです。

21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。

23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

再び主は「安かれ」と語られました。今日の個所の中に主は三度「安かれ」と語られました。

「父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」
私たちが平安を頂くという事、神との平和と調和、互いの平和と調和を頂くという事は、私たちが神様から遣わされるためです。

「聖霊を受けよ。あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

そしてそのために私たちは聖霊を受け、知恵と力に満たされます。それは、私たちが主イエス様による救いを取り次ぐためです。

24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかった。

25 ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

この喜びの主との再会の時に居合わせない、出会いそびれた人がありました。それがトマスでした。ここは有名な個所です。「疑い深いトマス」としばしば言われます。

トマスと言いましたら、勇猛果敢なヨハネ 11 章の個所を思い出します。

11:5 イエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。

11:6 ラザロが病気であることを聞いてから、なおふつか、そのおられた所に滞在された。

11:7 それから弟子たちに、「もう一度ユダヤに行こう」と言われた。

11:8 弟子たちは言った、「先生、ユダヤ人らが、さきほどもあなたを石で殺そうとしていましたのに、またそこに行かれるのですか」。

11:9 イエスは答えられた、「一日には十二時間あるではないか。昼間あるけば、人はつまづくことはない。この世の光を見ているからである。

11:10 しかし、夜あるけば、つまづく。その人のうちに、光がないからである」。

11:11 そう言われたが、それからまた、彼らに言われた、「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く」。

11:12 すると弟子たちは言った、「主よ、眠っているのですしたら、助かるでしょう」。

11:13 イエスはラザロが死んだことを言われたのであるが、弟子たちは、眠って休んでいることをさして言われたのだと思った。

11:14 するとイエスは、あからさまに彼らに言われた、「ラザロは死んだのだ」。

11:15 そして、わたしがそこにいあわせなかったことを、あなたがたのために喜ぶ。それは、あなたがたが信じるようになるためである。では、彼のところに行こう」。

11:16 するとデドモと呼ばれているトマスが、仲間の弟子たちに言った、「わたしたちも行って、先生と一緒に死のうではないか」。

危険を顧みず、先生と一緒に行って、死ぬべきなら死のうとまで言ったのがトマスでした。

しかしここでのトマスは、自分が集会に出なかった時にほかの弟子たちが嬉々としてイエス様に出会ったという話を聞きながら、心を強情にして、お前たちの話なんか信じない、自分の召しか信用しないという意味合いにとられ、唯我独尊なイメージがするのです。私が思いますに、彼は物事を突き詰めて考える人でした。心に強い確信を持っていて、人がこういったからと言ってすぐに信じるのではなくて、自分で筋道を立てて調べ上げて、信じられるものならば信じ、そのようにして一度信じたならば、何が何でも突き通すタイプだったのではないのでしょうか。

「熱しやすく、冷めやすい」という言葉がありますが、何となく信じた者は何かあればすつと去って行ってしまうと彼は考え、自分は徹底的に調べ、観察し、考えて、納得したら絶対その道を離れないと考えていたのではないのでしょうか。

それはそれとして貴重な存在でした。ぱっと悟って、見て聞いて信じられる人もいれば、そしてずっと信じ続ける人もいれば、悩みに悩んで信じる方もいます。

25 ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

トマスは、本当に信じたいからこそ、自分の目でこのことを確かめたいと思いました。そして悶々として1週間を過ごしました。

26 八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいた。戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。

トマスのこともトマスのこととして、一つ気にかかるのが、1週間して、また弟子たちが戸をしっかりと閉ざしていたという事です。イエス様が真ん中に立ち、「安かれ」と言われ、息を吹きかけ、遣わすよと語られたのに、見て信じていたのに、弟子たちは相も変わらず恐れの中にいたのです。ですから、集会を休まずにイエス様に出会って信じていた弟子たちも、集会を休んだからイエス様に会えなかった、そして1週間を悶々と過ごしたトマスも、どこか弱さでは一緒のような気がいたします。

「イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。」

原文では、「イエス様はその閉ざされていた戸に現れ、そして真ん中に立った」とあります。イエス様はその恐怖のゆえに閉ざされていた戸の所に来て、現れて下さいました。その弟子たちの弱さ、臆病さ、信じ切れない弱さ、そして「遣わす」と言われながらも人を受け入れないで閉じこもるその扉の所に主は現れました。そして世の私たちの弱さの部分を通り越して私たちの真ん中に立ち、「安かれ」と再び語られるのです。

ヤコブ 4:1 あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。

私たちはいつも私たちの内に弱さを抱え、見当違いを抱え、そして平和と調和を失っています。その弱さと汚れのただ中に主はお入りくださり、十字架に釘打たれた贖いのお身体を見せて下さいます。

27 それからトマスに言われた、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手ののぼしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。

28 トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。

29 イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。

30 イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。

31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

私たちはこのイエス様に心の内にお入り頂き、平和を頂き、恐れを取り除かれ、癒しときよめと力に満たされて遣わされていきます。聖霊の御力によって、弱き者の状況の中で働かれる主のお働きを見せていただき、イエス様によって命を頂いたものとして、その救いの御名を宣べ伝えていくのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。恐れおののき、戸に鍵をかけて震える弟子たちの真ん中に立ち、平安をお祈りくださり、聖霊を与え、弟子たちを遣わし、使命に生かして下さいます主に感謝いたします。いよいよ心深く確信をもって復活の主に期待し、人生を懸けてお従い出来ますようにとお助け下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン